

エコノミスト 360° 視点



渡辺 博史 国際通貨研究所理事長

海面上昇がもたらす身近な影響

地球温暖化の影響の一つとして、海水面の上昇が挙げられる。気温の上昇で海水が膨張し総量が増えるほか、陸上の氷塊（氷河など）が溶融することでも海水は増加する。さらに、太陽光をかなり反射していた水面が無くなれば、温暖化は一段と加速する。こうした複合要因によって海水面が上昇するという。

地球温暖化の影響の一つとして、海水面の上昇が挙げられる。気温の上昇で海水が膨張し総量が増えるほか、陸上の氷塊（氷河など）が溶融することでも海水は増加する。さらに、太陽光をかなり反射していた水面が無くなれば、温暖化は一段と加速する。こうした複合要因によって海水面が上昇するという。

地球温暖化の影響の一つとして、海水面の上昇が挙げられる。気温の上昇で海水が膨張し総量が増えるほか、陸上の氷塊（氷河など）が溶融することでも海水は増加する。さらに、太陽光をかなり反射していた水面が無くなれば、温暖化は一段と加速する。こうした複合要因によって海水面が上昇するという。

地球温暖化の影響の一つとして、海水面の上昇が挙げられる。気温の上昇で海水が膨張し総量が増えるほか、陸上の氷塊（氷河など）が溶融することでも海水は増加する。さらに、太陽光をかなり反射していた水面が無くなれば、温暖化は一段と加速する。こうした複合要因によって海水面が上昇するという。

地球温暖化の影響の一つとして、海水面の上昇が挙げられる。気温の上昇で海水が膨張し総量が増えるほか、陸上の氷塊（氷河など）が溶融することでも海水は増加する。さらに、太陽光をかなり反射していた水面が無くなれば、温暖化は一段と加速する。こうした複合要因によって海水面が上昇するという。

地球温暖化の影響の一つとして、海水面の上昇が挙げられる。気温の上昇で海水が膨張し総量が増えるほか、陸上の氷塊（氷河など）が溶融することでも海水は増加する。さらに、太陽光をかなり反射していた水面が無くなれば、温暖化は一段と加速する。こうした複合要因によって海水面が上昇するという。

地球温暖化の影響の一つとして、海水面の上昇が挙げられる。気温の上昇で海水が膨張し総量が増えるほか、陸上の氷塊（氷河など）が溶融することでも海水は増加する。さらに、太陽光をかなり反射していた水面が無くなれば、温暖化は一段と加速する。こうした複合要因によって海水面が上昇するという。

大な打撃となる。

東南アジア諸国の関係者と話していると、「豊かな日本は自己資金で堤防・護岸をかさ上げし、施設を囲い込むことで被害の減少に努めるだろう。しかし、我々にはそれだけの資金余力がない」と言われることが多い。重要なパートナーであるこれらの国の問題にどう対処するかも課題だが、果たして日本が自らの資金で防衛できる「豊かな国」であり続けられるか、ということも疑問な点だ。

次に、淡水の「汽水化」である。静岡県の浜名湖のように淡水に海水が混じり合った水域が拡大することだ。多くの場合、汽水域は河口部に形成されるが、世界の農業地域の相当部分は大河のデルタ地域など河口部に存在する。汽水化による塩害はその生産基盤を喪失させかねない。世界人口は増え続け、今世紀末には100億人に達するとされる。食糧生産力を高めるための工夫と有効な投資が必要だが、それに逆行する負の動き

をいかに最小化するかは頭の痛い問題といえる。

最後に、居住地域の水没である。全土が水没することはないにしても、海水面が上昇すれば、これまで居住可能であった地域が水没することになる。日本でも、海水面が1以上上昇した場合には、現在約300万人が居住している地域が水没するとされる。

インド亜大陸にあるバングラデシュはさらに深刻だ。平均標高が低くかつ人口も多いため、同様の海面上昇が起

ると、1000万人単位の国民が居住すべき土地を失うとされる。同国は国土のほとんどの地域が人口密集地で、これだけの人数が避難する場所を国内で確保するのは難しく、隣国のインドへ避難民が流入することも想定される。

これをインドが容認するかどうかは極めて大きな課題だ。対応によっては地域の安全を損なう、という議論が既に前世紀末から真剣に行われているが、関係国間の合意は難しいようである。

まず、産業基盤となる発電所や石油精製・ガス施設、コンビナートへの影響だ。こう